人が生きる上で重視すること (2)

— 高齢期を対象として —

高井範子

(大阪行岡医療大学)

キーワード：重視すること, 人生, 高齢期

What is Deemed Important in Living One's Life : Focusing on Old Age

Noriko Takai

(Osaka Yukioka College of Health Science)

key words : what is deemed important, life, old age

【目 的】 人が生きる上で重視することに関しては Spranger(1922)や Morris(1956)を初め, 価値観研究として国内外で研究がなされてきた。高井 (2014) は, 40代・50代の中年期の人びとを対象として, 生きる上で大切に思うことについての自由記述分析を行っている。その結果, 人との関わりや生き方態度, 心の支えが上位3領域であったことを示している。本研究においては 60代以上の高齢期を対象とした自由記述分析によって人びとが生きる上において大切に思うことを検討する。

【方 法】 質問紙は近畿圏を中心に, 北海道, 中部・関東, 中京, 中国・四国, 九州地域に配布した。本研究の調査対象者は, 60代以上の男女である。自由記述の回答者数は, 60代305名 (男性131名, 女性174名), 70代以上92名 (男性52名, 女性40名) である。質問紙の自由記述欄で, 生きていく上において何を大切だと考えるかを尋ねた。複数回答を含む記述内容について KJ 法(川喜田,1970)による分類を行った。

【結果と考察】 表1に示されるように, 60代以上の人びとが生きて行く上において大切だと考える領域は, 「1. 人とのかわり, 「2. 生き方態度, 「3. 心身の健康」が上位3領域であった。上位の1位と2位は中年期の順位と同様であった。

表1 生きていく上において大切なこと (60代以上)

カテゴリー	合計	合計(%)	男性	男性(%)	女性	女性(%)
1.人とのかわり	150	26.9	65	27.5	85	26.5
2.生き方態度	122	21.9	56	23.7	66	20.6
3.心身の健康	116	20.8	49	20.8	67	20.9
4.自己の内面	38	6.8	9	3.8	29	9.0
5.心の支え	31	5.6	6	2.5	25	7.8
6.なすべき事	31	5.6	21	8.9	10	3.1
7.経済的側面(お金)	28	5.0	15	6.4	13	4.0
8.目標・夢・希望	12	2.2	5	2.1	7	2.2
9.自己の存在価値意識(使命感)	11	2.0	6	2.5	5	1.6
9.楽しみ・幸福感	11	2.0	1	0.4	10	3.1
11.その他	7	1.3	3	1.3	4	1.2
合 計	557	100.0	236	100.0	321	100.0

“出来るだけ多くの人たちとつき合い, 良い知恵を分かち合って充実して生きる”といった「人とのかわり」領域が男女共に最も多かった。本領域の下位領域としては, “思いやり”や“協調性”などの「対人スキル」も含まれる。2位の「生き方態度」領域では, “ポジティブ思考で前向きに生きる”, “精一杯”, “悔いなく生きる”といった積極的な生き方態度に加え, “自分でできることは出来るだけ自分でする”, “周囲に迷惑をかけないように生きる”といった記述が中年期よりも多く見られた。極力最期まで自力で生きて行こうとする気概が感じられる記述が多かった。

中年期と比較して特徴的だったことは, 「心身の健康」が3位に位置していることである (中年期 7.6%→20.8%)。“健康が何よりも大切”という記述に代表されるように, 心身共に弱っていく現実を直視し, 周囲に迷惑をかけないことを心掛ける記述も見られた高齢期の人びとの切なる願いでもあろう。また, 老後の生活

に不安を感じている記述も見られ「7.経済的側面」の割合も増加していた。中年期では女性の方の割合が多かったのであるが (M1. 8%, F4. 9%), 高齢期では男性の方が多く, 増加割合も多かった (中年期男性 1.8%→6.4%)。

男女の差異として特徴的だったのは, 図1・図2に示されるように, 「4. 自己の内面」と「5. 心の支え」の2領域は2群ともに女性の方が男性よりも割合が多かった。「自己の内面」には, “日々

感謝の気持ちを持つことが大切”といった内容や “心の豊かさ”, “精神力”, “気力”といった内容が含まれる。「心の支え」には, 特定の宗教への帰依の有無を問わず “信仰心”や本の言葉や他者の存在が心の支えになっているといった内容が含まれる。

他方, 「5. なすべき事があること」や「7. 経済的側面」に関しては, 2群共に男性の方の割合が多かった。特に, 「なすべき事があること」に関しては, 中年期男性 4.1%だったが, 60代男性 9.4%, 70代以上の

男性 においても 7.6%あり, 中年期よりも割合が増加している。趣味や社会貢献, 仕事など, 高齢期においてもやるべき事があることが日々の生活の張りになっている様子が窺えた。

一方, 中年期は6位だった「楽しみ・幸福感 (5.6%)」は高齢期では9位 (2.0%)に減少していた。「目標・夢・希望」は中年期 (5.0%)では男性の方の割合が多かったのであるが (M7.1%, F4.2%), 高齢期では2.2%に減少していた。

以上のように, 高齢期においても, 中年期同様, 他者とのかわりを重視する点やポジティブな生き方態度を重視する姿勢は変わらない結果であった。高齢期の生き方態度の内容として, 周囲に迷惑をかけないことに言及している記述が多かったが, これらが実現するためにも, 心身の健康があればこそという点で3位に健康が挙がっているのも高齢期の特徴であろう。

女性では, 自己の内的領域を重視する傾向が特徴的であった。自分が必要とされる人間であるという自己の存在価値意識が 70代以上の女性の記述にも見られた。男性では楽しみや目標等よりは, 日々の生活においてなすべき事があることを重視している。有限の生における様々な限界に直面し, 第一線を退いている高齢者が活力を持って充実して生きるための場作りも高齢社会において考える必要のある課題であろう。【引用文献】 高井範子 2014 日本発達心理学会第25回大会発表論文集, 388.